

V I E W

「交番検査周期延伸」・「新体制」から半月！

「140分交検」は『安全最優先』か？！

「3万キロから6万キロに周期延伸した交番検査と新体制での作業」が3月31日からスタートして半月が経ちます。導入前の「新体制についての現場説明会」の質疑応答でも明らかになったように「細かい作業タクト時分」などは設定せずに「トータルで140分交検」をこなすという内容で、検査前に「消耗品を先に見て交換する部位を書き出す」など極力作業者の「無駄な動き」を無くして「140分」にまとめています。導入前の「労使協議の場」でも「予備検査もないから短い時間の交番検査が可能です」という主旨のことが関西支社の担当者から言われましたが実際には「加圧機器検査」と名を変えて同じようなことはやっています。「新交検導入・140分ありき」に腐心した会社の姿勢を垣間見ることができます。

4月1日の総点呼で所長から「時間を優先するのではなく安全最優先で」というお話もありましたが、導入後の支社車両課担当者を伴った現場点検では「作業終了のランプ消灯」の時間を特に気にしていたように見受けられます。

実際の作業はどうでしょうか？特に「運転台作業」「A担務作業」「協力会社のSEK作業」で時間に余裕がない作業が行われています。SEK作業が昼の休憩時間に食い込んだり、E交検の開始時間がズレ込んだりという話も聞いています。新体制に移行後ほぼ「1本目・3本目の運転台・A担務作業」と「2本目の運転台・A担務作業」は別の人を充てていました。「作業の遅れを見越して・あるいは遅れなかったとしても時間に余裕がない」のが理由だと思いますが、「作業が回らない」のなら作業時分を見直したり要員措置をすべきです。

3月31日の作業前と4月1日の総点呼では所長から「皆さんは（交検新体制移行という歴史的な日に）今この場に居れて幸せ」というお話もありましたが、会社としてより多く収益を上げるためにコスト削減も必要でしょうか、現場で「働く者の立場」からすると両手を挙げて「はい幸せです」となるのでしょうか？「これから暑くなりますが午後の2本目・3本目は長丁場になりますよ」「6万キロが定着して消耗品の交換量はどうなるのでしょうか」「作業応援をもらって何とか時間におさまる作業ダイヤってどうなんでしょう」など『安全最優先』でない状況がもしあるとしたら、その改善のために社員として声を上げようではありませんか！